

国際企業とのパートナーシップは このように構築すべき —国際産学連携活動の事例紹介—

産学連携本部
産学連携研究推進部
Proprius21 プログラムオフィサー
岡本 明彦



All rights Reserved. Copyright (c) 2013 The University of Tokyo

ボーイング社との産学連携状況

1. 2008年 ボーイング社メンバが東大を訪問
PIA締結 (※PIA:Proprietary Information Agreement)
2. 2009年 教員、産学連携本部とボーイング社メンバが
シアトルと東京を往復し、研究テーマを議論
⇒信頼関係の構築
3. 2010年 覚書(MOU)署名
(※ MOU:Memorandum Of Understanding)
4. 2010年 個別共同研究でキックオフ

5. 2011年
国際産学連携フォーラム準備開始
6. 2012年 国際産学連携フォーラム
ガンツ博士 ご講演
VP & GM, Boeing Research and Technology
7. 2012年 共同記者会見

産学連携活動の加速

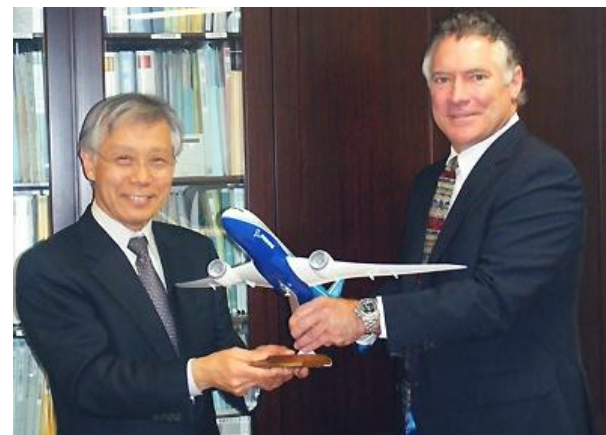
ーボーイング社ー

覚書(MOU)を締結

(2010年2月4日)

松本洋一郎理事(副学長)とマット ガンツ
バイス・プレジデントとの両名によって署名

「航空宇宙に関する最新テクノロジー
分野での共同研究テーマを探る
骨組みとプロセス」を進める



松本副学長(左)とガンツ バイス・プレジデント※(右)

第2回国際産学連携フォーラム

(2012年2月12日)

「テクノロジー・シンセシス」

- ・ボーイング社から技術ニーズを発信
- ・本学の研究者8名からそれぞれの
技術の優位性をアピール



ガンツ バイス・プレジデント※

※VP & GM, Boeing Research and Technology

海外企業との連携の広がり

フィジビリティ・スタディー

⇒ 単独共同研究

⇒ 複数分野での共同研究

⇒ 教育（海外経験、英語）

人材育成（企業研究員）

⇒ 広報（学内、学外）

⇒ 複数企業参加の
コンソーシアム

制度

G-Propirus21

⇒ 受託研究

共同研究

⇒ 寄附、奨学寄附

⇒ 寄付講座

社会連携講座

⇒ センター（コンソーシアム）

国際産学連携の事例 ーネスレリサーチセンター社ー

「食と生命」をテーマに総括寄付講座へ

ネスレリサーチセンターはネスレの基礎科学研究センター
加齢と栄養等に関するG-Proprius21を締結(2008年11月)
また、「食と生命」に関して**総括寄付講座**を総長室に設置
(2009年6月)

生命科学・栄養分野から選抜された「食と生命」担当の
教授陣のほか、ネスレリサーチセンターの客員研究員らが
担当

海外に本社を置く企業による初の寄付講座設置

参考：www.ducr.u-tokyo.ac.jp/jp/research/proprius21/example.html

国際産学連携の事例 —シーメンス社—

欧州製造企業との連携を継続中

ドイツの電気製造企業であるシーメンスの日本支部を拠点としてG-Proprius21活動を開始(~2009年4月)
ヨーロッパ企業として最初のProprius21活動

電力関連領域と産業オートメーションで共同研究や
フィージビリティスタディを創出

エネルギーから産業オートメーションまで広範囲な領域で
探索や連携を継続中

第1回 **国際産学連携フォーラム** (2011年3月3日)
「Green Technology Innovation」では
CTO、アハツ博士が環境、エネルギーで議論

参考: 冊子「Proprius21: 価値創造型共同研究の創出」 東京大学産学連携本部2012.12発行, 22頁
http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/jp/materials/pdf/2010annual_report.pdf

国際産学連携の事例 ーサン・マイクロシステムズ社ー

プログラミング言語における国際産学連携

海外企業で初めてG-Proprius21を締結
担当教員をアサインして情報処理技術分野での
共同研究探索を開始(2006年4月)

Sun Labsへの訪問や電話会議により10件近い候補を
選択、1年間検討後2件採択

⇒ 情報理工系研究科の研究グループと
Sun Labs等とで共同研究を実施

参考: www.ducr.u-tokyo.ac.jp/jp/research/proprius21/example.html

国際産学連携の事例

ートレンド・マイクロ社ー

“Webからの脅威”を守る情報セキュリティの研究

アンチウィルス等の情報セキュリティで事業展開中の
グローバル企業: 安心安全な社会基盤の実現に向けた
G-Proprius21活動を展開(2007年1月)
個別共同研究1件創出

⇒ **情報理工学系研究科、経済学研究科**の
研究者が参加して、URLデータベースを利用して
情報ネットワーク構造解析を行い、今後のセキュリティ
対策に貢献する知見を創出

参考: www.ducr.u-tokyo.ac.jp/jp/research/proprius21/example.html

国際産学連携の事例ーエボニック・インダストリーズ社ー

化学分野で将来のビジネスニーズに向けた共同研究を創出するためG-Proprius21を開始(2011年7月)

研究所および研究者の連携を相互に図り、最適なパートナーを探索

⇒ 工学部系分野の研究者が本活動に取り組み、触媒に関してフィジビリティ・スタディの共同研究を創出
新たな触媒の可能性あるいは高効率反応技術を探索中

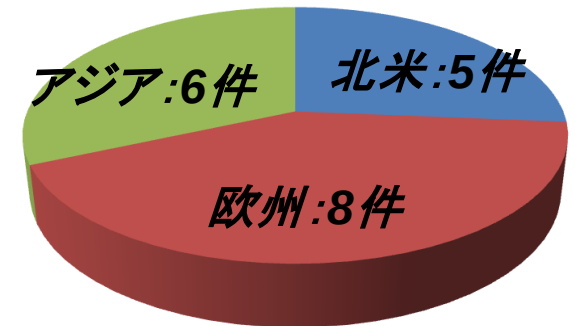
製造工程でのイノベーションの観点から成果が大いに期待

参考: 冊子「Proprius21: 価値創造型共同研究の創出」 東京大学産学連携本部2012.12発行, 22頁

国際産学連携活動状況

G-Proprius21契約企業:19社(2005~2012)

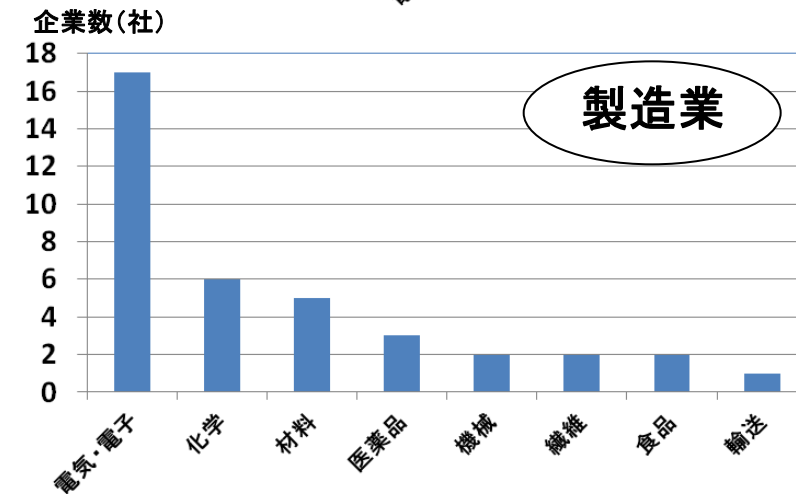
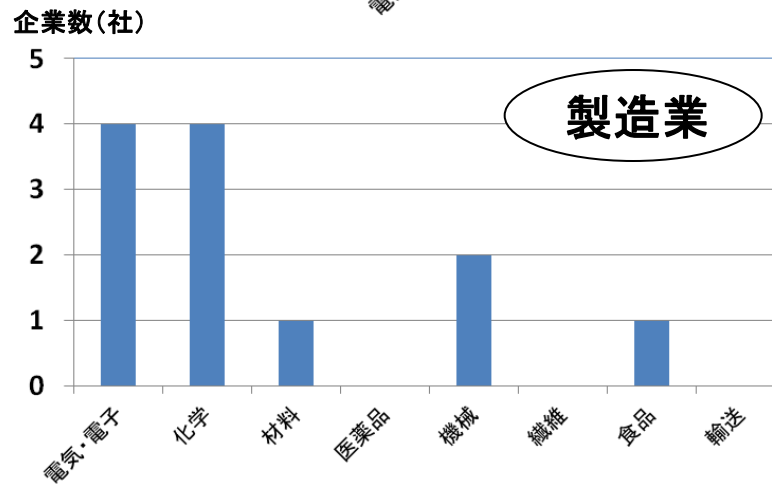
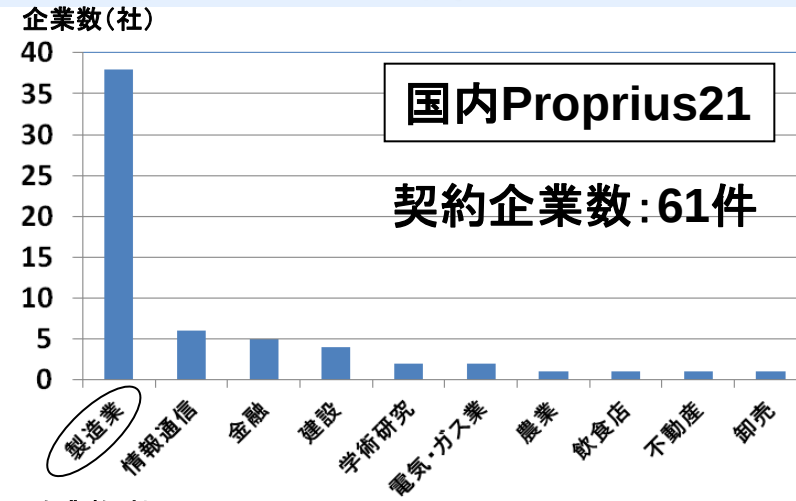
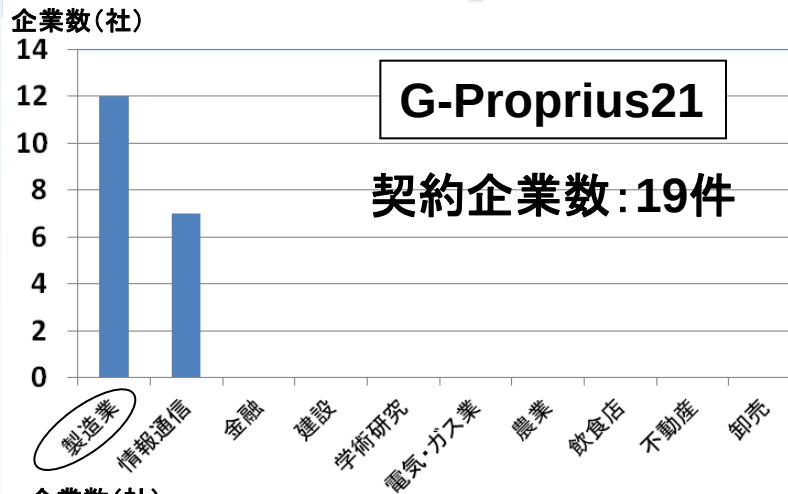
コンピュータ・ITサービス・セキュリティ:6社、電気通信事業:1社、
総合電気・電力機器メーカ:2社、半導体・電子機器:2社、
石油・化学メーカ:4件、機械2件
材料:1件、食品:1社
北米:5社、アジア:6社、欧州:8社



主な連携検討中もしくは情報交換中の企業:10社

コンピュータ・ITサービス・セキュリティ:2件、航空機関連メーカ:1社、
石油・化学メーカ:5件、材料メーカ:1社
医薬品メーカ:1社
米国:5社、欧州:4社、アジア:1社

G-Proprius21: 業種別分類

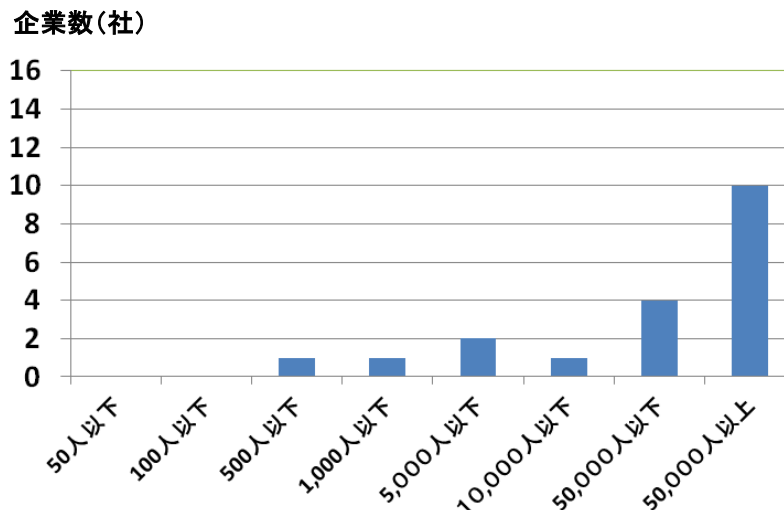


国際連携では製造業と情報通信が主、製造業の中では化学系が比較的多い

G-Proprius21: 企業の規模

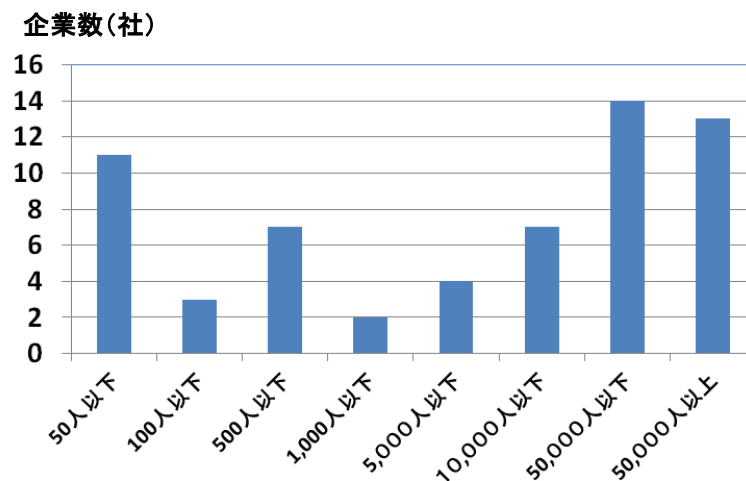
従業員数別企業数

G-Proprius21



契約企業数: 19件

国内Proprius21



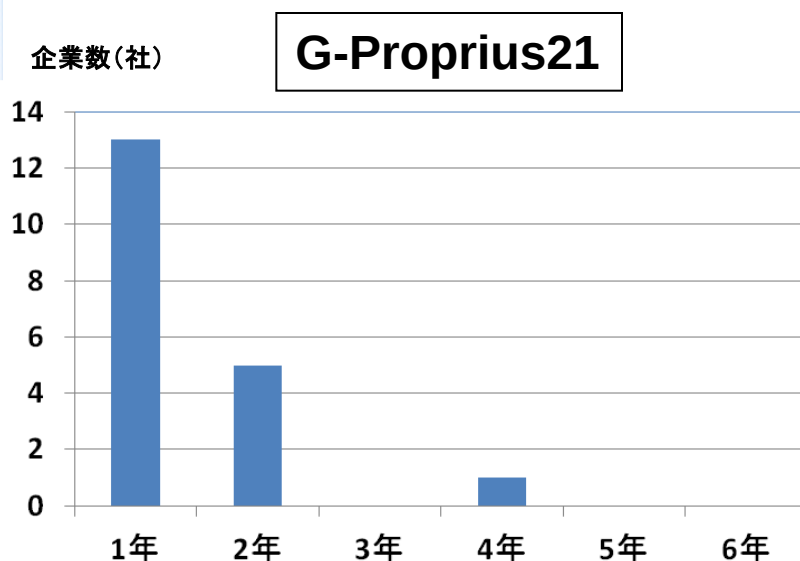
契約企業数: 61件

国際産学連携ではGlobal企業が中心

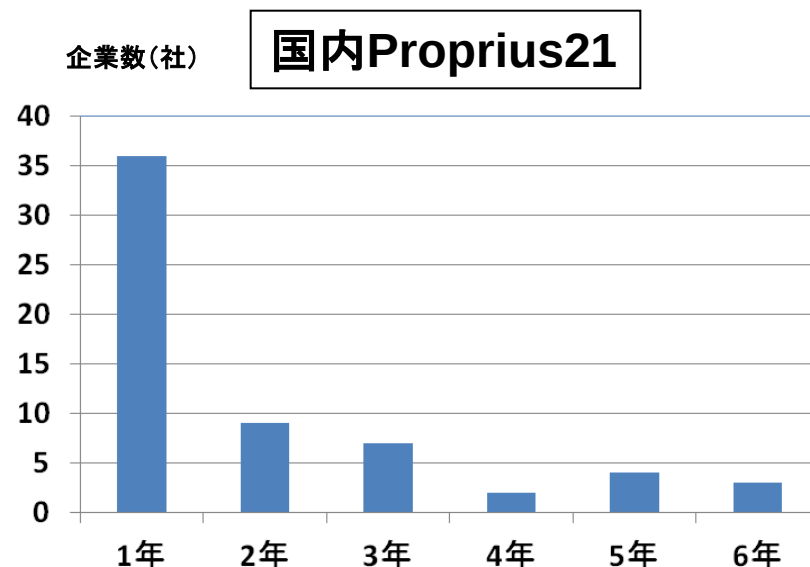
国内では大企業と共にベンチャー等小企業との連携

G-Proprius21の契約期間

契約期間別企業数



契約企業数:19件



契約企業数:61件

- ・国内、国際とも1年程度のProprius21で共同研究開始
- ・継続的連携企業もある

国際企業とのパートナーシップの構築(1)

1. 信頼関係の構築

企業の要望の把握と本学の教員や
ポリシーの理解促進

2. G-Proprius21による確実な共同 研究の創出

3. 情報提供、交流の場の提供

UCRプロポーザル(英語版)の提供
国際産学連携フォーラムの開催

国際企業とのパートナーシップの構築(2)

4. 骨太の連携構築へ

複数部門との連携や教育、人材育成も含めたトータルな連携の構築

5. 社会を変革するイノベーション創出

複数部門、複数研究機関、複数企業を巻き込んだ国際プロジェクトを目指す

以上